



(様式2)

令和2年8月8日

始良市議会議長 様

会派名 市民クラブ
代表者氏名 吉村 賢一
(電話) 0995-63-0364

調査研究報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 令和2年7月7日(火)午前8時30分～
- 2 場所 始良市内ゴミ関係収集事業所研修視察
① 丸山喜之助商店/RPFエネルギーセンター
② 丸山喜之助商店/中央資源化センター
③ あいら清掃センター
④ 始良リサイクルセンター
- 3 目的 ゴミ関係収集施設視察研修
- 4 該当する政務活動費の用途項目 研修費
- 5 支出経費の内訳と金額 調査研修費
¥4,020.-
- 6 参加議員名 吉村賢一・上村 親・湯川逸郎・峯下 洋
- 7 活動成果の概要、所見
別紙のとおり
- 8 成果物、資料等
研修ビデオ撮影・パンフレット

領収証 市民くらぶ 様 No.

★ ￥4020 -

但 加治木さんじゆう代として

令和2年7月7日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

〒899-5241 鹿児島県姶良市加治木町木田242-1

加治木饅頭堂 免堂

代表 寶藏正昭

TEL0995-63-3317 FAX0995-62-022

令和2年7月28日

始良市議会議長 東馬場 弘 殿

市民くらぶ

代表者氏名 吉村 賢一

始良市内視察研修報告

下記について視察研修してきました

日時：令和2年7月7日

出席：湯川、上村、峯下、吉村

目的) 現在市は資源ごみとして15品目で分別収集しているが、工場の分別処理と見合っているか。このままで良いのか。まだ分類を増やした方がいいか。処理現場の実情を視察して認識を深める。

訪問先) 市内の業者①丸山喜之助商店/中央資源化センター②同/RPF エネルギーセンター③あいら清掃センター④始良リサイクルセンターの4か所

1. 丸山喜之助商店 (RPF エネルギーセンター、中央資源化センター)

主な事業内容：一般廃棄物収集運搬業、一般廃棄物中間処理業、産業廃棄物処理運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、資源化業務のコンサルタント、リサイクル施設の運営、施設運転管理の受託。製紙・鉄鋼原料・非鉄金属・空き缶・空き瓶・ウエス原料、廃プラスチック類の選抜・圧縮・破砕による中間処理

○一般家庭から出される古着は主にウエス（機械等の清掃用）として使用、以前は発展途上国へ輸出されていたが、最近はRPF 固形燃料にしている。

○特に粗大ごみの処理方法についても色々検討されていて、元の所有者に断り、リユースを実行しているが、木質系は固形燃料にしている。

○生ごみは主に事業系で処理方法として、動物の腸から抽出した酵素で食物を分解し、竹チップも混ぜ約20日間かけて堆肥化している。

○金属類の再利用については、ベルトコンベアを流れる金属類を亜鉛、銅とか更に細かく人の手で金属のふるい分けを行っていた。

○扱いは不燃物ゴミが主だが、時に可燃物ゴミが入っていることもある。（事業系に多い）

○始良市の資源ごみの仕分けは綺麗であり、手をかけなくてもすぐ有価資源化の工程に載せられる。量は合併前と比較して減っている。

○堆肥（成分表はない）は無償で提供（但し、土づくりの肥料）しているがこの原料はイオンタウンの生ごみが主であり、箸、串、ビニールを除外する手作業を並行して行っている。

⇒始良市の各農業団体等と連携し、食品リサイクル農作物として、製品化を目的とした意見交換の場を設けられないか。

2. あいら最終処分場

○クローズド式最終処分場はH18年9月供用開始で、埋立容量19,250 m³でH31年時点で凡そ半分が埋まった。セルアンドサンドイッチ方式埋立てで満杯になるのは15年間の予定だったが以下の理由であと20年は使える見込みである。

※当初吉田清掃工場の煤塵の搬入は4,5年間あったが、後は三池精練(株)に運ばれるようになった。又、し尿焼却灰も搬入されていたがこれも(有)岩掃の堆肥施設で処理するようになったためH29年以来ほぼ搬入されなくなった。

○焼却場に運搬されてくる事業系ゴミに金属類が紛れているケースが多い。
⇒ごみを炉釜に落とし込むときの音で気づいて係員が注意することもある。

3. 始良リサイクルセンター

○この施設で処理するのは下記1.~3.の8品目

1. 缶類 (①飲料缶・②食用缶)

2. プラスチック (③ペットボトル・④その他のプラスチック)

3. ビン類 (⑤透明・⑥茶瓶・⑦生き瓶・⑧その他)

下記の売却益は全て市に支払っている。

4. 古紙⇒直接専門業者に運搬している。

- ①新聞・チラシ、②紙パック③ダンボール・クラフト紙④本・雑誌・包装紙・空き箱等
5, 乾電池
6, 蛍光灯
7, 植物性廃食油
8. スプレー缶

○始良市の分別ランキングA・B・Dランク中【A】(年一度抜き打ち検査あり)

コンテナ回収【緑】のメリットは4種類同時にトラックに搭載可能。

ペットボトルのキャップ(首ネック・ラベル(プラ))減点対象だが、総体的に分別が良好のため【A】ランクになっている。

○ペットボトル:汚れたものや材質の違うものが混じっている。ボトルに貼ってあるシールがはがされていたら環境省の評価は満点。

○プラスチック:この中にプラでない樹脂系統のボトルが混入

【弁当のバラ、ジッパー付き冷蔵・冷凍用袋】⇒燃えるゴミ

最終識別分類は人間の眼と手で処理、まだまだ資源ゴミ回収時点の分類が不十分と感じた。

○生き瓶は、口元が欠けないように蓋が付いている方がいい。三色瓶は砕くので問題はない。

○旧始良では資源物収集袋に自治会名の札が入っており、仕分けの悪い自治会は指導できる。

⇒加治木・蒲生も札を入れれば指導がしやすくなる。

考 察

始良市の資源ゴミ処理は比較的いい精度で分類されていて、再利用に活かされている。全体として更に分類の精度を高めることで最終工程の分類仕分けの負担が減る。環境省の評価が高ければ買い取り価格も高く維持される。(現在：最上級の【A】ランク)

最終の仕分け・現場の課題

- プラ・ペット・瓶の分類でも、もう少し精度を上げて回収できそうである。
- 最終処分場では事業系搬入ごみに金属類が混じったりして、未分類のまま、溶融されて埋め立て地に捨てられるケースも多い⇒搬入時に抜き打ちチェックしたり、度重なればその業者に警告を発し、搬入時の検査手数料を加算する。あるいは搬入を禁止する手立てを考えるべきである。
- 特に事業系ごみの中に「不燃物ごみ」の中に「可燃物ゴミ」があったり、プラ類の中に食品がまぎれこむケースが多い。

今後のあり方

- 15 品目については今のところ、市民の負担をこれ以上増やす必要はないようだ。資源化はこの分類で大方リサイクル業者に購入してもらえる。
- 市としては分類精度を上げる協力を呼び掛ける情報発信が必要であり、工場としては丸山喜之助商店で言われるように更に残渣を少なくする努力の積み重ねも必要である。
 - 自治会及び校区単位で、資源ごみの分類の精度を段階的に高めるように、啓発するビラを作成していけばどうか？立会人の学習も必要と思われる。
 - わかる範囲でどの自治会にどのような傾向があるかを知らせ啓発していくことも必要。
 - 事業系ごみにしても継続的に啓発して分類精度を高めてもらう必要がある。
 - 限りある地球の資源を循環して使えるように、市民の協力や努力が必要であることを改めて再認識した。

今回の研修で「ごみのリサイクル」の大事さ！自分たち一人一人が配慮をすることで、地球環境にやさしく、いつまでも平和で暮らしやすい環境維持に努めて、子々孫々、未来に生きる人たちのために出来ることを模索し続けたい。

3R の Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル) は、地球温暖化対策にも有効であり、限りある資源を将来の人類に残す努力は不断に必要である。生活のあり方も見直し、市民が協力することで地球に負荷を与えないことができる。

また、ごみ資源の有効活用については分野別に協議する必要がある。

ほかに、火事の後処理の問題等、市民・行政・業者・学識経験者・議会・各種団体等が協議して課題や情報を共有する必要がある。

以上